

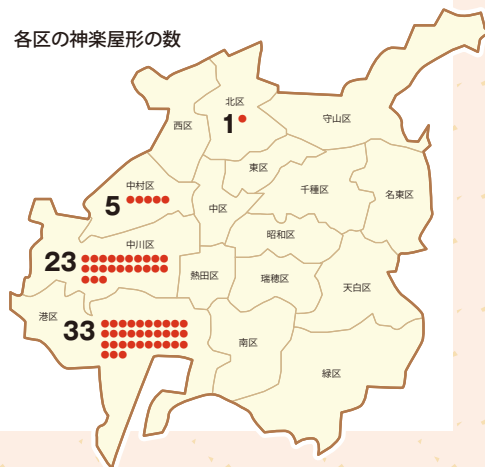
名古屋市内の神楽屋形一覧

北 区	金城町
中村区	城屋敷町(稲葉地町上ノ切)
	稲葉地町下ノ切
	烏森町南ノ切
	烏森町町ノ切
	烏森町中ノ切
中川区	打出町
	愛知町西わけ
	愛知町東わけ
	法華1丁目、2丁目西町
	東起町
	中島新町三軒家
	中島新町西中島
	下之一色町南之切
	下之一色町東之切
	下之一色町中之切
	下之一色町西之切
	富田町脇新田
	江松中わけ
	春田下ノ割
	春田上ノ割
	富田町千音寺市場の割
	富田町千音寺北の割、中の割
	富田町千音寺南の割、市場の割
	長須賀
	供米田
	かの里
	富田町榎津
	富永
港 区	中之組
	西之組
	辰巳町
	土古
	寛政町
	杵場町
	当知三丁目
	小碓

港 区	善進町
	惟信町
	宝神町
	船頭場
	八百島
	小須賀東(小東)
	小須賀西(小西)
	知多
	七反野
	春田野
	茶屋
	七島
	藤前
	小川
	川原
	藤高
	橘
	西福田新屋敷
	西福田上中
	西福田東之割
	西福田下中
	西福田西之割
	西福田六軒屋
	新茶屋
	福前

※赤字のものは名古屋まつりの神楽揃に登場する神楽屋形

各区の神楽屋形の数



なごやの地域に伝わるお祭りを

知ろう! 見よう!

金色に輝く!

名古屋西部に伝わる民俗文化財

神楽屋形

解説パンフレット

神楽屋形とは?

もともとは獅子舞に使う獅子頭を移動させるための祠が、金色に豪華に装飾され、神楽屋形として地域のシンボルとなりました。神楽屋形は、江戸時代後期には名古屋城下の仏壇づくりの職人によって制作されていたことがわかっています。

太鼓は皮を強く張り、竹を細く割ったばちで叩き、甲高い音を鳴らします。

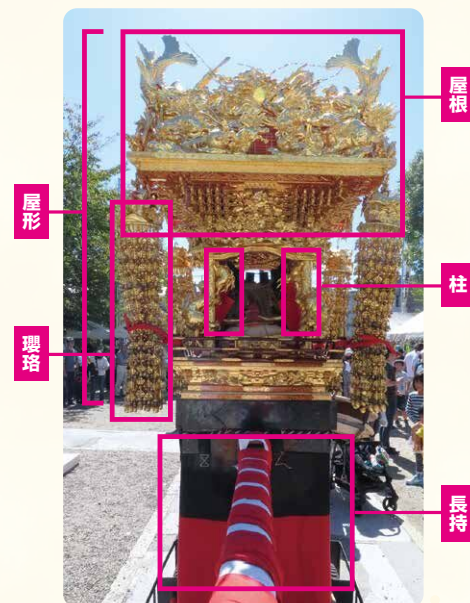
港区、中川区、中村区の名古屋西部を中心に、各地域の秋祭りで太鼓と笛の音とともに町内を巡ります。

【屋形】

- 屋根の上に獅子や龍、合戦物語などの彫刻を置き、屋根の頂上の両端に鯨をのせます。
- 屋根を支える4本の柱にも、龍や獅子の彫刻を付けるものがあります。
- 屋根の四隅には、豪華な垂れ飾り(環珞)を吊り下げます。

【長持】

- 屋形をのせる長方形の台で、前後に突き出る1本の長い棒を通してあります。
- もとは長い棒をかついで神楽屋形を移動させていましたが、現在は台車などにのせて、曳いて移動させます。
- 長持の前方に屋形、後方に長胴太鼓をのせます。長胴太鼓の左側には締太鼓を取り付けます。



名古屋市 港区南陽学区の神楽屋形



① 七島神楽屋形



江戸時代末期制作

④ 小川神楽屋形



1980年制作

⑤ 川原神楽屋形



1970年ごろ制作

② 藤高神楽屋形



1988年制作

③ 藤前神楽屋形



制作年不明

⑥ 茶屋神楽屋形



江戸時代末期制作

⑦ 橘神楽屋形



1985年制作